

ウェルビーイング教育

品川区立学校では、「子どもたちの笑顔でつながる共生社会～みんなのウェルビーイングを目指して～」という教育ビジョンのもと、ウェルビーイング教育を推進しています。

ウェルビーイングについて、児童・生徒が理解するためには、生活の中でどのようなときに心地よさを感じるか、自分が何を大切にしているかを自覚することが大切です。ウェルビーイングについての学習活動を通して、「希望」「友情」「多様性」などウェルビーイングの要因に意識を向け、自分だけでなく他者や学級・学校・社会全体のウェルビーイングについても理解を深めています。

個人が獲得・達成する能力や状態に基づく
ウェルビーイング（獲得的要素）
自己肯定感・自己実現など

人とのつながり・関係性に基づく
ウェルビーイング（協調的要素）
利他性・協働性・社会貢献意識など

両者を調和ある形で一体的に向上する

ウェルビーイング教育の取組より



3年生の「市民科」の授業の様子です。

「命の大切さ」をテーマとして、自分や友達の心臓の鼓動を感じる装置（心臓ピクニック）を用いて、児童達は、自分の命を支えてくれるものへ感謝しながら、一生懸命に生活することの大切さを考えています。



7年生の「市民科」の授業の様子です。

「自分の意思をもつことの大切さ」をテーマとして、ウェルビーイングの要因が書かれたカードを用いて、生徒たちは、話し合い活動を通して自己理解を深めるとともに、お互いが気持ちよく生活することができるようにするためにはどのように周囲の人と関わればよいかを考えています。

しながわ 多様性理解・多文化共生

これまでのオリンピック・パラリンピック教育や学校 2020 レガシー、東京デフリンピック開催の経験を生かして実施してきた教育活動を継承し、多様性理解・多文化共生推進の学習を実施しています。

学校ごとの経営方針、幼児・児童・生徒の実態、地域性に応じて特色ある取組を展開しています。

しながわ多様性理解・多文化共生推進事業

各学校・各幼稚園では、障害者理解（多様性）や日本文化・スポーツ体験等（多文化共生）の推進を図っています。

パラスポーツ体験やアスリートとの交流、日本文化体験、大使館との交流等を多様性理解・多文化共生の推進に生かしています。

また、手話言語条例の制定や東京デフリンピックの開催を契機に、子どもたちが聴覚障害への理解を深められるように手話体験等に取り組んでいます。



障害者理解（ブラインドサッカー体験）

令和元年度から、区立学校8年生を対象に、東京 2020 大会本区応援競技の「ブラインドサッカー」の体験教室を行っています。障害者理解を促進し、思いやりの心を育てる一助としています。

また、教員を対象とした「ブラインドサッカー」の研修も行っています。教員自身が障害者理解を深めるとともに、品川区の教育施策への理解、幼児・児童・生徒理解、指導方法の工夫改善につなげています。



帰国児童・生徒等支援日本語指導

日本語能力が不十分な帰国児童・生徒、外国人児童・生徒に対し、山中小学校内と八潮学園内に日本語指導短期集中教室を開設しています。この教室では、日本語の習得および学習支援に係る適応指導を行い、学習環境を改善し、社会生活を円滑に営むことができる能力の育成を図っています。

市民科

市民科は、特別の教科 道徳、特別活動、総合的な学習の時間を統合・再構築した品川区の独自教科です。

平成 18 年度より、義務教育 9 年間を通した系統的な指導で、市民（社会の形成者）としての資質と能力を育てています。また、中学校区ごとに目指す児童・生徒の育成をねらいとした、「一貫プラン」を実施しています。その中で地域に応じた探究的な学習を全校で行っています。

～市民科の構成～

「市民科」

- 市民科学習
- 一貫プラン
- 児童会・生徒会活動
- クラブ活動
- 学校行事

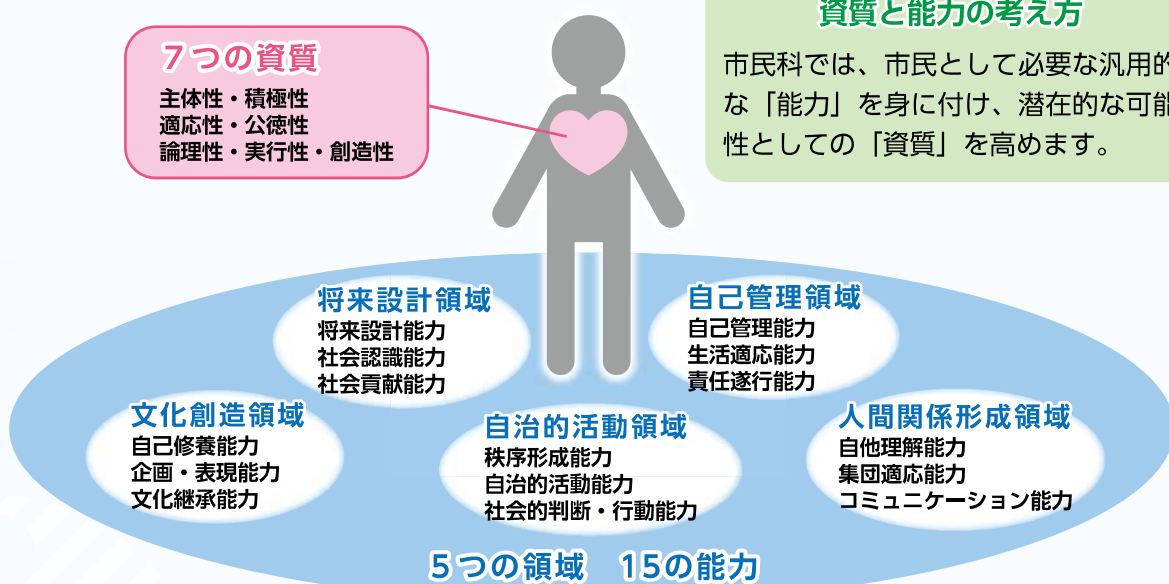
市民科の資質と能力

7つの資質

主体性・積極性
適応性・公德性
論理性・実行性・創造性

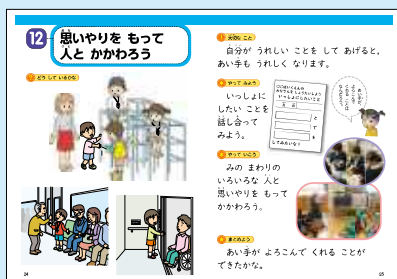
市民科における 資質と能力の考え方

市民科では、市民として必要な汎用的な「能力」を身に付け、潜在的な可能性としての「資質」を高めます。



市民科学習の時間には、区で作成した市民科の教科書を使用して学習を進めます。単元の中での学習のステップを示し、上記で示した領域ごとの資質と能力を段階を追って身に付けていきます。

（平成 30 年度からは「特別の教科 道徳」の教科書も併せて活用しています。）



市民科学習は、5つのステップに沿って進めます。

ステップ1 把握	課題発見・把握 課題に関わる意識調査や話し合う活動を通して、自己の生活と行動を振り返り、解決すべき問題点や社会的背景を把握する。
ステップ2 認識	知識／価値／心情 交流・協議しながら、多面的・多角的に独自の判断基準を捉え直すとともに、心情を深め、解決するための行為・行動の意義や価値について認識する。
ステップ3 習得	スキルトレーニング／体験活動 体験的な学習を通して、認識した価値を実践につなげる態度を養うとともに、課題解決に向けた具体的な対処方法、技能を習得する。
ステップ4 実践	日常実践／活用 ステップ3までに学習した正しい知識や習得した技能を、学校・家庭・地域で実践・活用する。授業時数には含まない。
ステップ5 深化	評価／深化 ステップ4での実践を振り返り、単元を通した自己の内面や行為・行動の変容について評価するとともに、社会的存在としての生き方について考えを深める。

この5つのステップを通して、児童・生徒は自ら課題を捉え、解決する力を身に付けるとともに、変化の激しい社会にも対応できる資質と能力を育んでいきます。

市民科学習の特色ある体験活動



茶道（3年生・4年生）



スチューデント・シティ（5年生）



ファイナンス・パーク（8年生）

注）7つの資質と15の能力、5つのステップは、「品川区立学校教育要領」に基づきます。

一貫プランについて【探究的な学習】

品川区では、一貫プランの中で探究的な学習を進めています。探究的な学習では、自らの興味や疑問を生かし、子どもたち自身が探究課題をもって学習を進めていきます。各学校では創意工夫を生かしながら学習活動の充実を図っています。

令和8年度からは、探究的な学習をより一層推進するために、品川探究サイクル（仮）に基づき、各学校で探究的な学習の質的向上を図っていきます。品川探究サイクル（仮）では、豊かな体験や身近な地域人材からのリアルな情報を収集したり、地域貢献や企業等への提案など実践につなげたりするなど、これまで市民科で大切にしてきた視点を生かしています。

品川探究サイクル（仮）

まとめ、表現のほか、地域や企業へのアクションを行う（例えば地域貢献の取組や企業への提案など）ことを意識できるようにしていく。

